ステップ2 自分に合った応援スタイルを考える

〈応援する方法〉
その1 活動に参加して応援
その2 寄附等で応援

興味があること、困っていること、気になること…
いつも何となく感じている「思い」を一歩前に進める。
それが応援です。

その1 活動に参加して応援

活動に共感し、自分でも何か行動したいと思った場合は、
- その活動にボランティア等として参加する
- 社員（正会員）となり、その運営に主体的に関わる

など、直接参加するかたちで応援する方法があります。

ボランティアって

NPO 法人の活動は、ボランティアの参加によって支えられていることが多く、法人運営には欠かせない存在です。

≪ボランティア活動の主なポイント≫

①自分の意志で行動する
②お互いに支え合い学び合う
③見返りを求めない
④より良い社会をつくる

ボランティア（Volunteer）という言葉は、ラテン語の Volo（ウォロ／自分の意志で行動する）や Voluntar（ボランタール／自由・正義・勇気）に由来すると言われています。

NPO法人の社員とは

「社員」といっても、「会社に勤務する人（会社員）」という意味ではありません。ここで言う社員とは「総会の議決権を持つ人」のことを指し、一般的には「正会員」と言われることが多いです。NPO 法人運営の重要な意思決定を行う社員総会を構成し、議決するという役割を有します。正会員の他に、賛助会員や利用会員など、議決権を持たない種類の会員を置いている法人もありますが、これらは NPO 法人の「社員」ではありません。

その2 寄附等で応援

活動に共感し、ボランティア等として参加してみたいけど、仕事や家庭の関係で時間がとれないといった場合には、「寄附金」や「会費」など、自分の思いを資金というかたちで託し、応援する方法があります。

「寄附金」や「会費」は重要な活動原資

NPO 法人の活動には、人、物、場所、資金、情報等多くの資源が必要です。中でも、資金については、安定的に事業活動を続けるため、どの法人もさまざまな手段や工夫により確保しているのが現状です。

NPO 法人の財源には、主に会費、寄附金、補助金・助成金、事業収入がありますが、特定の財源に依存しない「寄附金」や「会費」は、財政面で自立し、継続的に社会貢献活動を行う上で欠かせない原資です。

なお、NPO 法人にとって寄附集めは、より多くの人々と社会問題を共有し、解決に向けた参加を呼びかけるための重要な活動でもあります。

変化する寄附への意識

2016 年の寄附者数は 4571 万人で 15 歳以上人口の 45.4%、寄附総額は 7756 億円と推計されています。これは、東日本大震災前の水準（2010 年：4874 億円）を上回っており、震災を経て個人寄附総額は増加傾向にあるといえます（※）。

阪神大震災があった 1995 年が「ボランティア元年」と言われたように、東日本大震災があった 2011 年が「寄附元年」と呼ばれることもあります。

※参考：日本ファンドレイジング協会「寄付白書 2017」

**何よりも「始めたい」「やってみたい」という気持ちが大切です。
まずは、興味があること、得意なこと、気になることは何か。
どのようなかたちで活動に参加したいのかについて、考えてみましょう。**